

ISO 認証機関

ASR エイエスアール 通信

<https://www.armsr.co.jp/>

2023October
VOL.43



contents

- エイエスアールのお客様紹介 p.2-3
株式会社ケイアンドエム様
- マネジメントシステムの運営管理に活用できる p.4-5
手法・ツール (その8)
問題解決型QCストーリー
- ASR博士の環境レポート p.6
持続可能な都市開発
- 企業向けISO関連教育サービス p.7
- 組織様向け情報 p.8

株式会社ケイアンドエム様 (東京都町田市)

今回は、株式会社ケイアンドエム様をご紹介致します。
株式会社ケイアンドエム様は、東京都町田市に本社を構え、
太陽光発電システムをメインに、蓄エネ・省エネシステムなど
の設計及び施工を幅広く手掛けておられる組織様です。
設置からメンテナンスまでお客様の立場に立ったサービスの
提供と地球環境への配慮に力を入れておられます。
取締役副社長でISOの管理責任者でもある地主寛治様にお話を
伺いました。



取締役副社長
地主 寛治 様

ーまずは御社の概要についてお話しただけです
か。

弊社は太陽光発電及び蓄電システム等の販売施工
メンテナンスを行っており、これが柱となる事業で
す。それに付帯して、省エネルギーフォームなども行っ
ています。具体的には外壁、屋根、内装など住宅と
いうものが住む人に優しく、さらに環境に優しくな
るような事業展開をしております。主なお客様は個
人住宅、一軒家をお持ちのお客様となります。

ーエネルギー関連など世の中の関心やニーズも高
まっているのではないのでしょうか。

今年の9月11日は関東大震災から100年というこ
とで、防災意識など関心を持って高めていただいで
いる方がたくさんいらっしゃいます。また、エネル
ギー問題という点では、ウクライナとロシアの戦争
が始まって、エネルギーというのは身近にあるもの
だけれども、それが当たり前ではない、有事の際に
金額が高騰したり実際に流通が激減したりするとい
うことを実感されている方も多いと思います。

他にも災害の問題、台風や洪水、地震などで基本
的なインフラが閉ざされてしまうといったこともあ
りました。そうした中で、やはり自分で使うエネル
ギーというものを、自分で確保していくという視点
を持つことでリスクを減らしていく、身を守ってい
くということをお考えになる方は増えているのでは
ないのでしょうか。

ここ数年の夏の猛暑で電力不足という話題が何度
も出てくる中、自分の周りのものを自分で守ってい
く、そしてそれが結果として、社会貢献にもつな
がるという点でも大切なことだと思います。

ー太陽光発電システムというのはどのようにして普
及してきたのでしょうか。

太陽光発電システムの設置が世の中で一気に増え
た時代がありました。当時は太陽光で電気を作って
余った分を電力会社に売るという、いわゆる売電の
価格が非常に高く設定された時期です。太陽光発電
は投資の一端のように思われていた時代で、このと
きに太陽光発電システムが大きく普及しました。

その後、2011年に東日本で大きな震災があって流
れが大きく変わりました。被災された地域の方はも
ちろん、都心部でも計画停電などがあり、投資目的
から今度は自分を守る、生活を守るエネルギーを確
保するというところに転換していきまし
た。

さらに異常気象と
呼ばれる猛暑であつ
たり豪雨であつた
り、自然現象も生活
に使うエネルギーに
大きな影響を与えま
す。エネルギーというものに対する世の中の意識が
大きく変わっていきまし
た。



ー太陽光発電システムは設置後のメンテナンスも大
事だと伺いました。

はい。実は太陽光発電システムが普及しだしたの
は2000年代なのですが当時はメーカーもメンテナ
ンスフリーを謳(うた)っていた時代でした。でも、実際
には、屋根に穴を開けてアンカーで固定するわけ
ですから、かなり大掛かりな仕掛けを持つことになり

ます。長く使うものですからその保守の必要性を弊社は強く感じておりました。

そこで弊社では、業界ではいち早く「お客様サポートセンター」というお客様専用の保守点検等を提供する窓口を設置しました。システムをきちんとメンテナンスができる、継続的な保守や点検はやはり必要です。それを行うことでお客様により品質の高いサービスを提供できていると自負しています。

また、先に触れたような太陽光発電の売電単価が高く設定された時代には異業種から太陽光発電に参入された企業もたくさんあったのですが、その後少し下火になってきたところに事業をやめてしまったり、担当部署がなくなってしまうということが業界全体でありました。そうすると設置はしたけれどもあとのサービスが受けられないというお客様がたくさんでできます。そういった方にも弊社は積極的にサービスをご提供させていただいています。

—ISO関連のお話を伺いたいと思います。そもそもISOの取得に至った経緯はどのようなことだったのでしょうか。

保守や点検サービスを提供することにより、お客様と長いお付き合いになっていくことを見据えて、品質に対する考え方や姿勢などを示す必要があると考えました。そうすることでお客様に信頼していただけて喜んでいただけることが一番大切ななと思います。

もう一つは太陽光発電というものが普及して設置業者が増えていく中で懸念していたのは、ある意味クレーム産業になってしまうという可能性です。異業種からの参入もそうですし、ただお金儲けのためだけに売りっぱなし、つけっぱなしといった業者さんもいなかったわけではありません。そういうことがあると業界自体の評価というか評判が悪くなっていくことを懸念していました。

弊社としてはISOを取得することで、品質に自信をもってお客様に信頼される技術のご提供をしようと考えました。

弊社には太陽光発電システムのオリジナルの設置方法があって、これは特許も取っているのですが、こういう技術もきちんと品質の裏付けとなるISO9001を取得していることがお客様の安心材料になるかと思っています。

—取得にあたってご苦労された点等ございましたか

コンサルの方に入ってもらったのですが、例えば、言葉や用語の一つ一つがわからないとか、初めは本当に大変でした。当時とはとにかく記録が大事だったので、それを軌道に乗せるのが大変でした。

少しずつ指摘をしていただきながら改善して、それを重ねながら現在に至っているという感じです。

今でも完璧に運用できているとは思いませんが、是正処置であったり、環境保全についてなど

全社的に実施することができるようになってきました。

—ASRの審査についてはどのように感じられていますか。

とても丁寧に審査していただいていると感じます。いろいろな審査員の方に審査をしていただいているのですが、どなたも弊社のことを事前によくお調べしてきていただいているなと感じます。



—今後、会社や事業をどのように展開していこうと考えていらっしゃるのでしょうか。

弊社は小さい会社ですので、大きく全国的に展開ということではなく、地域に根差した事業、具体的には1都3県をメインに事業をしていこうと思っています。それは先ほど申し上げた太陽光発電、そして蓄電や省エネのシステムが十分にお客様に満足いただけるサービスとして提供し続けていくということを変わずにやっていこうと考えています。

—最後に御社のPRなどありましたらお願いします。

太陽光発電システムを販売設置する業者としては、全国的に見ても古い会社だと思っています。それゆえの経験やノウハウというものを持っていますし、設置した後の保守業務やメンテナンスも重ねておりますので、設置される方が安心してずっと使っていただけるサービスを提供していると自負しています。

太陽光発電システムというものはものすごく長持ちします。周辺機器はどうしても壊れたりすることはありますが、一番重要な太陽電池パネルは大変長く使っていただくことができます。一度太陽光発電システムを導入したらその後ずっと大切に使用いただけるように、サービスを提供することをお約束します。ご興味がある、導入を検討されている場合はぜひご相談ください。

常にお客様目線でサービスを考え、質の高い製品・技術に加えて継続的なサポートでお客様の信頼にこたえながら太陽光発電システムに取り組まれておられる組織様でした。

お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。

当コーナーでは、弊社の登録企業様のISO活動や事業をご紹介します。事業への思いや取組みなどについて、PRしてみたい企業様は、是非、下記宛にご連絡ください。
ASR通信 事務局 E-mail: otoiwase@armsr.co.jp

マネジメントシステムの運営管理に活用できる手法・ツール

その 8

～ 問題解決型QCストーリー～

1. はじめに

今回は、マネジメントシステムの改善を行うためのツールとしてよく用いられる“問題解決型QCストーリー”について解説します。

2. ISO 9001 との関係

ISO 9001 の改善に関する要求事項は、次に示すように箇条 10 に記載されています。

組織は、顧客要求事項を満たし、顧客満足を向上させるために、改善の機会を明確にし、選択しなければならない。また、必要な取組みを実施しなければならない。これには、次の事項を含めなければならない。

- a) 要求事項を満たすため、並びに将来のニーズ及び期待に取り組むための、製品及びサービスの改善
- b) 望ましくない影響の修正、防止又は低減
- c) 品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性の改善

改善の定義は、“パフォーマンスを向上するための活動”です。このため、改善活動を効果的に行うためのツールの一つとして問題解決型QCストーリーを活用することが大切です。

3. 問題とは

問題とは、設定してある目標と現実との、対策して克服する必要のあるギャップのことです。ギャップとは、現状のレベルと要求事項のレベルとの差のことであり、この差の大きさを考慮して、論理的に改善することが大切です（図1参照）。

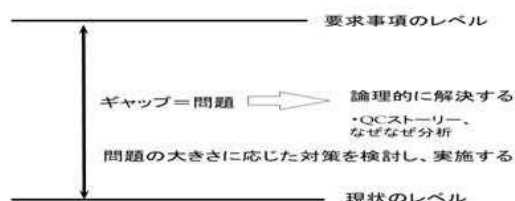


図1 問題の考え方

このギャップを埋めるためには、現状を把握して、目標を達成できない要因を検討し、その中から原因を

特定し（一つとは限らない）、再発防止を行い、その結果を評価し、プロセスの改善につなげるという手順に基づいた改善活動を行うことで効率的に結果を得ることができます。この手段として問題解決型QCストーリーがあります。

問題を考える際には、どのような状況で問題が発生しているのかを把握することが大切であり、次に示す状況から何が問題なのかを検討します。

■ 問題はどのプロセスに現れているのか

マーケティング、設計（製品・サービス、製造・サービス工程）、調達（購買、外注）、製造・サービス提供、営業などの製品実現のプロセスおよび設備管理、人材育成管理などの支援に関するプロセス

■ 問題は明確になっているのか

製品・サービスの品質、仕事の質にどのような悪い影響を与えているのかが特定されているのか

■ 問題が隠れている（リスク）のか

このような状態が継続すると問題に発展しそうか

■ 問題がたまたま発生したのか

今まで安定した状態であったが、何らかの条件が変化したことで偶発的に異常が発生したのか

■ 問題がいつも発生しているのか

慢性的に問題が発生しているか

■ どのような規模の問題なのか

問題の大きさは、大きい、中ぐらい、小さいのか

4. QCストーリー

問題解決型QCストーリーとは、問題に対して、原因を特定し、対策し、確認する一連の活動を行う型に関して、改善活動をデータに基づいて論理的・科学的に進め、効果的かつ効率的に行うための基本的な手順のことです。

決められた手順にしたがって作業を実施し、プロセスを管理していても、何らかの原因で、品質、コスト、納期、安全、環境などの経営要素に関する目標が達成できない場合があり、このような場合には、目標達成

のために改善を行う必要があります。この改善を行うためには、改善を行う人の勘、経験、度胸に頼って行うと失敗をすることが多いです。

このような失敗をしないためには、改善を推進するための仕組みを理解し、これに沿った活動を行うことが大切です。この手順を示したものが問題解決型QCストーリーです。

問題解決型QCストーリーとは、問題を解決するための基本的な改善の手順を示したものであり、下記に示す8つのステップに基づいて行うことで効果的で効率的に改善活動を推進することができます。また、問題解決の結果は、改善の知識を蓄積するため、改善報告書として作成することが大切です。

【問題解決型QCストーリーの手順とその着目点】

STEP1 テーマの選定

着目点

- ・なぜ、この問題を取り上げたのか
- ・どの特性を問題とするのか
- ・そのテーマは仕事の中で一番重要なものか
- ・対象とするプロセスは明確か

STEP2 現状の把握と目標の設定

着目点

[現状の把握]

- ・過去のデータはあるか
- ・データの履歴（サンプリング方法、測定方法、*5W1H）などはわかっているか
- ・今までの状況を綿密に調べたか
- ・ヒストグラム、グラフ、管理図、パレート図などに示したか
- ・特性値は明確か

[目標の設定]

- ・目標達成時期はいつか
- ・期待利益はどのくらいか
- *5W1H：思考やコミュニケーションに用いるフレームワークのことで、When（いつ）、Where（どこで）、Who（誰が）、What（何を）、Why（なぜ）、How（どのように）の6つで構成される。

STEP3 要因の解析

着目点

- ・結果と要因の関係はどのようになっているか
- ・特性要因図を活用しているか
- ・なぜなぜ分析を行っているか

STEP4 対策の立案

着目点

- ・対策の内容と解析結果の結び付きはうまくいっているか
- ・*再発防止対策か、単なる手直し処理かの区別は明確か
- ・いくつかの対策案を比較検討したか
- ・実施評価の基準（効果および時期）は明確か
- ・対策の実行計画書を作成したか
- *再発防止：検出された不適合、工程異常、又はその他の検出された望ましくない事象について、その原因を除去し、同じ製品・サービス、プロセス、システムなどにおいて同じ原因で再び発生させないように対策をとる活動のことである。

STEP5 対策の実施

着目点

- ・対策を実施しているか

STEP6 効果の確認

着目点

- ・効果は、対策の前後が比較できるような特性になっているか
- ・効果は予測と合っているか
- ・対策が現れなかった場合、その理由を明らかにし、再度調査・解析する必要はないか
- ・再度今回の対策を進めるか
- ・副次的効果を把握しているか

STEP7 標準化と管理の定着

着目点

- ・プロセスの標準の制・改訂を行ったか
- ・*日常管理を行っているか
- *日常管理：組織のそれぞれの部門において、日常的に実施されなければならない分掌業務について、その業務目的を効率的に達成するために必要な全ての活動のことである。

STEP8 反省と今後の対応

着目点

- ・改善活動の推進上の問題点を明確にしているか
- ・残された問題が明確になっているか

次回は、不確定要素が多い場合の目標を達成するために活用される“課題達成型QCストーリー”について解説します。

福丸 典芳 氏

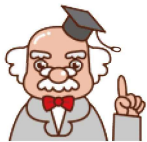
(株)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。

コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。

近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。



持続可能な都市開発

～未来のための革新的なアプローチ

1. はじめに

現代の都市は急速に成長し、私たちの生活において中心的な役割を果たしています。しかし、都市化の進展は多くの課題を引き起こし、環境への負荷や社会的な問題を抱えています。持続可能な都市開発は、これらの課題に取り組むための重要なアプローチです。この記事では、持続可能な都市開発の意義、主な原則、そして具体的な取り組みについて探っていきます。

2. 持続可能な都市開発の意義

持続可能な都市開発は、地球環境の保護と社会的な福祉の向上を追求する重要な手段です。持続可能な都市は、エネルギー効率の改善、廃棄物の管理、交通の最適化、緑地の確保など、環境への負荷を軽減することが求められます。また、社会的な面では、住環境の向上、包括的な都市計画、社会的な結束の促進などが重要な要素となります。持続可能な都市開発は、私たちと次世代の生活の質を向上させるために必要不可欠です。



3. 持続可能な都市開発の原則

持続可能な都市開発を実現するためには、以下の原則に基づいたアプローチが必要です。

a. **統合的な都市計画**：持続可能な都市開発では、統合的な都市計画が重要です。異なる分野や関係者の意見を統合し、長期的なビジョンと戦略を策定することで、バランスの取れた都市環境を実現することができます。

b. **エネルギー効率と再生可能エネルギーの活用**：持続可能な都市はエネルギー効率の改善と再生可能エネルギーの活用を重視します。建物の断熱性能の向上、省エネルギー設備の導入、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの利用などが具体的な取り組みとなります。

c. **公共交通と非モータリゼーションの促進**：持続可能な都市では、公共交通機関の充実と非モータリゼーション（歩行や自転車利用）の推進が重要です。交通渋滞の軽減、大気汚染の削減、健康的な生活習慣の促進などに繋がります。

d. **緑地の確保と生態系の保護**：都市における緑地の確保と生態系の保護は、持続可能な都市開発の重要な要素です。公園や緑地の整備、都市農業の推

進、自然保護区の設置などが具体的な取り組みとなります。

4. 具体的な取り組みと事例

持続可能な都市開発の実現に向けて、世界各地で様々な取り組みが行われています。以下にいくつかの事例を紹介します。



a. **米国オレゴン州ポートランド**：ポートランドは公共交通の拡充、自転車利用の促進、エコフレンドリー建築の奨励、都市緑化、リサイクル強化、再生可能エネルギー導入を進めることで、持続可能な都市開発に注力しています。これにより、環境と共生する都市づくりを目指しています。

b. **ドイツ フライブルク**：フライブルクはドイツのエコ都市として知られ、緑の交通政策、広範囲な公共交通ネットワーク、自転車利用の推進、緑地や公園の確保、そして環境に優しい建築標準を採用しています。特に「ヴォーベルビューテル」エコ区は、持続可能な住宅と生活スタイルのモデルケースとして世界中で注目されています。

c. **スウェーデン マルメ**：マルメはスウェーデンの環境先進都市として知られ、再生可能エネルギー、持続可能な交通、生物多様性の増進を目指しています。「ウェスタン・ハーバー」地区は、再生エネルギーと持続可能な都市計画のモデルとして世界的に注目されており、雨水管理や緑の屋根、エネルギー効率の高い建築が特徴です。

5. おわりに

持続可能な都市開発は、地球環境の保護と社会的な福祉の向上を追求するために必要なアプローチです。統合的な都市計画、エネルギー効率の改善、公共交通と非モータリゼーションの促進、緑地の確保と生態系の保護など、さまざまな原則と具体的な取り組みが求められます。世界各地の成功事例から学びながら、私たちは持続可能な都市の実現に向けて積極的な行動を起こし、未来の世代により良い環境と生活を提供することが求められます。



エイエスアール主催

企業様向け ISO 関連教育サービス

決まった時間に講師が解説するセミナーと、自由な時間に自分のペースで学べる学習動画（e-ラーニング）が、自分のスタイルに合わせて選べます。

▶ ISO関連セミナー（2023年10月～2024年1月）

内部監査員養成セミナー 1日/2日 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001

ISO 規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。

集合セミナー

1日			
品質	東京	10月17日(火)	10月18日(水)
		11月21日(火)	11月22日(金)
		12月21日(木)	12月22日(金)
	名古屋	11月 9日(木)	11月10日(金)
環境	大阪	12月14日(木)	11月17日(金)
		11月16日(木)	10月20日(金)
労働安全	東京	12月15日(金)	12月18日(月)
		12月 6日(水)	

2日	
品質	東京 11月29日(水)～30日(木)
URL	https://www.armsr.co.jp/asr_pc/internalaudit/internalaudit.html

規格要求事項の解説セミナー 1日 ISO9001・ISO14001

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

品質	2月 7日(火)
環境	2月 8日(水)
URL	https://www.armsr.co.jp/mss21.html



規格ポイント解説セミナー 半日 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

規格要求事項のポイントについて、半日で解説するセミナーです。規格要求事項を勉強したいがあまり時間が取れない」方にお勧めします。集合セミナー・WEBセミナーいずれかのご受講をお選びいただけます。

集合セミナー WEBセミナー

《集合セミナー》

東京	10月 16日(月)	品質	9:30～12:30
	12月 20日(水)	環境	13:30～16:30
大阪	11月 15日(水)		

《WEBセミナー》

品質	11月 1日(水)
	1月 29日(月)
環境	11月 2日(木)
	1月 30日(火)
情報	10月31日(火)
	1月 23日(火)
URL	https://www.armsr.co.jp/mss20.html

ISO 入門セミナー 半日 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

「ISO とは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISO の基礎を解説するセミナーです。

WEBセミナー

品質	12月 4日(月) 2月 5日(月)
環境	12月 5日(火) 2月 6日(火)
URL	https://www.armsr.co.jp/mss11.html

環境側面解説セミナー 1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

日程	1月15日(月)
URL	https://www.armsr.co.jp/mss12.html

エイエスアール株式会社本社移転に伴い、集合セミナー開催場所が変更になりました。
詳しくはホームページにてご確認ください。

▶ ISO 学習動画（e-ラーニング）

新規講座が順次開講し、約30本のコンテンツをご用意しています。内部監査員用のコンテンツも開講しましたので、どうぞご利用ください。

	講座名	視聴時間	規格
1	情報セキュリティ社員教育「キミツマモルくん」 前編/後編	50分	QEIO
2	ISO入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001	1.5時間	QEIO
3	規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001	2.5時間	QEIO
4	内部監査員 養成講座 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001	6時間	QEIO
5	環境側面解説セミナー	2時間	QEIO
6	改善のステップ	1.5時間	共通

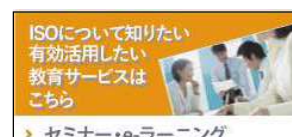
URL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

※規格： **Q**:QMS **E**:EMS **I**:ISMS **O**:OH&SMS
※視聴時間は、おおよその時間です。規格によって若干異なります。

セミナーや学習動画の詳細と最新情報は、ASR トップページのおранже色のバナー（下図）かURLからご確認ください。
※お申込みはホームページのWEBフォームからお願いいたします。

<https://www.armsr.co.jp/ac/>

セミナー・学習動画（e-ラーニング）に関するお問い合わせはこちら
TEL:03-3666-8624 E-mail:seminar@armsr.co.jp



いつでもどこでも、パソコンやスマートフォンで、空いてる時間に、
自分のペースで、何度でも繰り返し学習できます。

社員教育プログラム

「キミツマモルくん」シリーズ

日常業務で直面する様々な情報セキュリティリスクとその対処方法をストーリー仕立てのイラスト動画で学ぶことができます。



QMS/EMS
ISMS/OH&SMS

規格ポイント解説セミナー

規格要求事項の用語や意味について、
ポイントを短時間で解説します。



QMS/EMS/ISMS

内部監査員養成講座

内部監査員として必要な基礎知識、規格要求事項の概要と監査技術を学べます。



修了証発行

QMS/EMS
ISMS/OH&SMS

ISO 入門セミナー

ISOを初めて学ぶ方に、「ISOとは何か？」から規格要求事項について概要を解説します。



QMS/EMS/ISMS

ISO 基礎講座プログラム **セット**

- ・ISO入門セミナー
- ・規格ポイント解説セミナー
- ・内部監査員養成講座

上記がセットになったパッケージです。
※EMSセットには「環境側面解説セミナー」が付きます

お申込みURL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

ASR 学習動画

検索



エイエスアールの
スタッフ紹介

お客様との会話を大切に



氏名	名：瀧上 大介 (ふちがみ だいすけ)
所属	営業部
趣味	読書、バイクツーリング

いつもお世話になっております。営業部の瀧上大介と申します。

私は現在、お客様にとって有益かつ手続きなどに負担の少ない審査を受けていただけるよう日々ご提案を行っております。

営業部配属になり、今年で2年目を迎えております。

入社当時はISOについての知識が少なく戸惑うことが多かったのですが、日々の業務や様々な業種・業態のお客様との商談を通じて少しずつ理解が深まっていると感じております。

さて、私事でございますが、学生時代にはバイクで日本一周を経験いたしました。

決して快適な旅とは言えませんでした。地域の方々

とのコミュニケーションが日々の糧となり、多くの場面で支えて頂きました。

私は現在、営業という業務を通じて日本各地をご訪問させていただいております。当時お世話になった方々に直接というのは、なかなか難しいですが、ISOの提案という形で、少しでも地域の方々に恩返しができればと考えております。

お客様との会話を大切に、一つ一つの商談に真摯に向き合い、お客様それぞれの最適解をご提案することで、少しでもお力添えできるよう業務に取り組んでまいります。

まだまだ若輩者ではございますが、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

発行元：エイエスアール株式会社

本社：〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-15
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)
名古屋支社：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-5
TEL 052-533-1822
名古屋第二支社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26
TEL 052-211-7102
大阪支社：〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16
TEL 06-4964-0120



品質・環境・労働安全衛生 情報セキュリティ



★次回発行は2023年12月の予定です。(年4回発行)
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

E-mail otoiawase@armsr.co.jp

URL <https://www.armsr.co.jp/>

ASR ISO

検索